

設備工事情報シート	その他	Ⅶ－S－5	制 定	2021/3/31	
			改 訂		
Ⅶ. フロントローディング	フロントローディング⑤		設備先行施工		
1. 目的・概要					
設備先行施工とは、作業場の全体工程スケジュールに影響することなく特定の建築設備工事を先行して行うことにより、建築設備工事の作業効率が向上し省人化が可能になるうえ、工事を前倒ししたことで工期短縮が可能となります。					
2. 設備先行施工の参考例					
(1) 外構配管の先行施工					
効 果：掘削及び埋戻し工事量の削減と効率化、足場解体以降の工程短縮。					
注意点：先行施工を行った配管端部の、適切な養生管理が必要。					
(2) ピット内設備の先行搬入、先行施工					
効 果：ダム穴開口数の削減、配管工事の施工効率向上。					
注意点：事前に建築工程に建築設備工程を織り込む。					
(3) 立管、立ダクトの先行施工					
効 果：施工性の向上、工期短縮。					
注意点：先行立管の支持固定方法の検討が必要。					
建築、建築設備共にどこまで進捗させて、					
次工程に渡すのか詳細調整が必要。					
(4) 空調機械室の先行施工					
効 果：施工性の向上、工期短縮。					
注意点：事前に建築工程に設備工程を織り込む。					
建築、建築設備共にどこまで進捗させて、					
次工程に渡すのか詳細調整が必要。					
(5) 天井内設備の先行施工					
効 果：施工性の向上、工期短縮。					
注意点：設備先行工事による建築工事の納まり変更の調整が必要。(区画壁取合い等)					
3. フロントローディングのポイント					
・ 先行施工を行うことによる建築工事・建築設備工事双方のメリット・デメリットを明確にし、比較検討をして立案することが望ましい。					
・ ステップ図などを活用して、関係者間の意思疎通を図る。					

< 縦配管先行施工の事例 >



< 空調機械室先行施工の事例 >



資 料

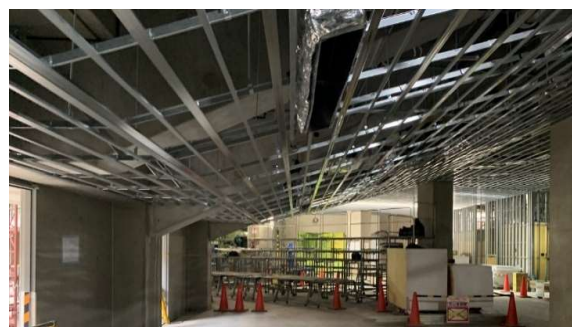


先行搬入した場合



内装工事先行の場合
(分割して搬入し室内での組立)

空調機械室先行施工の事例



天井内設備先行施工の事例



外構配管先行施工の事例